

の計 600 名から、親子関係に関する作文を寄せてもらい、それについての高校生と父母の批判をも加えて分析する方法をとった。

3. その結果、①第 1 報、第 2 報で明らかになった親子の意識のズレは、この方法によっても実証されたこと、②親子の間で起こる問題は、親の職業、地位、家族構成などの環境の違いにもより、また親の考え方の面で④古きよき時代に郷愁を覚えるタイプ、⑤現代っ子にお手上げのタイプ、⑥時代に即した努力をしているタイプ。以上三つのタイプなどの違いにもよって、個々の家庭でかなり異なること。③親子間で起こる問題は親子双方にその原因があるが、とりわけ親の側の原因が大きいこと、④親子間の問題を解決するためには、相互の理解と努力が必要であるが、とりわけ子の側の理解と努力が必要であり、それによる人間的成長こそが、親子間の問題を解決し、親子関係をも変えうること、⑥親子間の問題は、親子の愛情がその解決の基盤となること、などが明らかになった。

E-19 現代における親子関係についての調査研究 (第 3 報)

—高校生とその父母の作文分析を
通して—

椋山女学園大家政 ○椋山 正弘
長谷川照蒸

1. 現代における親子関係について、第 1 報、第 2 報では、特に高校生段階での親子の意識のズレを中心に、アンケート式調査から一般的傾向とその相関関係を明らかにした。今回は特に親子の作文分析を通して具体的な問題点を明らかにすることをねらいとした。

2. 研究方法としては、前回の高校 1 年生を対象とし、男子 100 名、女子 100 名の計 200 名と、その父母 400 名